

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006 年 11 月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目次	Pages
➤ 活動報告	1
➤ 会議・イベント等	5
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	5
➤ 事務局からのお知らせ	6

## 巻頭書記

平成 21 年度がスタートし、JRRN 事務局では、今年度の活動計画を急ぎ策定中です。日中韓が中心となり取り組むアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の活動と連動させ、日本の優れた情報や事例をアジアに発信し、またアジアを含む海外の優れた知見を国内に還元することに貢献できる JRRN 活動を今年度も目指していきたくと考えます。

本号では、先月 ARRN 事務局として参加しました第 5 回世界水フォーラム(トルコ)の報告、ARRN 技術委員への白川直樹先生の御就任、また「年次報告書 2008」や「河川再生の手引き ver.1」完成の報告を中心に紹介しています。

引き続き、JRRN 会員皆様の積極的なご支援とご協力をお願い申し上げます。

## 活動報告(1)

### 第 5 回世界水フォーラム(トルコ)参加の報告

第 5 回世界水フォーラムが、3 月 16 日(月)～22 日(日)にかけて、「水問題解決のための架け橋」をテーマにトルコ・イスタンブールで開催されました。

前回の第 4 回世界水フォーラム(2006 年 3 月・メキシコ)における日中韓共催分科会の提言を受けて ARRN が設立されたこともあり、フォーラム参加者への ARRN の PR や関連情報収集、また ARRN 作成の「河川再生の手引き」普及活動を主な目的に、今回も JRRN 事務局より二名が参加致しましたので、現地での様子をご報告させていただきます。

#### 【1】 第 5 回世界水フォーラムの開会式

3/16(月)午前には開催された開会式では、開催国であるトルコ大統領や日本の皇太子殿下など各国要人による開会挨拶が行われました。



第 5 回世界水フォーラム開会式の様子

## 【2】 皇太子殿下による基調講演



皇太子殿下による基調講演

3/17（火）午前には、皇太子殿下による基調講演が行われました。日本における水と人々の関わりについて、皇太子殿下のご専門とする歴史的視点からの考察に基づいた歩みが紹介され、水と調和した暮らしを営んできた日本の水の歴史が各国の聴講者に紹介されました。

ご講演の中でも特に印象に残ったのが「土地に刻まれた水の記憶は簡単には消えることは無い」というお言葉で、水に関わる土木遺産を調べることで当時の人と水の関わりが理解でき、歴史的な教訓を今後も生かしながら発展していくべきという内容の素晴らしいご講演でした。

## 【3】 World Water EXPO

World Water EXPO では、様々な国や組織の水に関わる取組みを紹介する展示が行われていました。

上下水道や浄化技術といった技術・製品に関わる展示が多い中で、今回の水フォーラムの中心的なテーマである「気候変動」に関わるパネルが多かったのが今回の一つの特徴と言えます。

その一方で、河川環境や生態に関わる展示はあまり多くない中で、韓国展示場における政府やNGOが取組む河川再生に向けた展示は目を引きました。



日本パビリオンの様子



韓国河川再生NGOブース

展示内容や手法に各国のカラーが出る中で、オランダや韓国など、縦割り組織ではなく、国がチーム一丸となって展示するスタイルを取る展示場が、特に参加者の注目を集めていたように感じました。



オランダパビリオン



韓国パビリオン

## 【4】 河川環境に関連する行事

水に関わる様々なテーマの行事が開催されましたが、中でも多かったのが、地球温暖化による気候変動と水問題に関するものでした。

河川再生に関連するセッションとしては、舟運や生態系保全、また越境河川管理をテーマとしたものがありました。いずれの講演や討議においても、現在世界中が注目する「気候変動問題」とそれぞれの問題をどのように関連付けて解決していくかという点が盛んに議論されていたように感じます。



生態系保全や越境河川管理の講演会

## 【5】 河川再生手引き配布、関係者との意見交換

今回のフォーラムには、ARRN のメンバーである中国・韓国・タイの関係者や、国際援助を担う国際機関の関係者も多く参加され、ARRN が作成した「河川再生手引き ver.1」の配布を通じて様々な意見交換を行うことができました。

また、ARRN のモデル組織であるヨーロッパ河川再生センター(ECRR)の Bart Fokkens 会長とも、今後のヨーロッパとアジアの協働に関する建設的な意見交換を行うことができ、その成果は今後の ARRN 及び JRRN の運営に反映して参ります。

(JRRN 事務局 和田彰)

## 活動報告(2)

### ARRN 技術委員に白川直樹先生(筑波大学)が就任しました

ARRN では、日中韓の専門家で構成される「ARRN 技術委員会」での協議を通じ、「河川再生技術指針」をはじめとするアジアで共有すべき河川環境分野の技術情報の蓄積を進めております。

この度、ARRN 技術委員の日本代表として、前任の中村圭吾委員に代わり、白川直樹委員(筑波大学)が就任されましたことをご報告致します。

#### <白川委員プロフィール>

- 筑波大学システム情報工学研究科 講師。
- 東京大学工学部土木工学科卒業、同大学院修了、同助手を経て現職。
- 研究テーマは環境流量、水文統計、経済評価など。
- 栃木県出身。
- 近著：  
「環境流量の実現と発展に向けて」  
(岩波書店『科学』2009年3月号)  
『川の百科事典』(丸善、分担執筆)

#### <白川委員からのご挨拶>

「このたび ARRN の技術委員をつとめることになりました。モンスーンアジアの河川は変動と多様性によって特徴づけられると考えています。アジアの特性を踏まえつつ、土地ごとの固有性を大切にしたい川の風景が実現するよう、力を尽くしたいと思います。」

(JRRN 事務局)

## 活動報告(3)

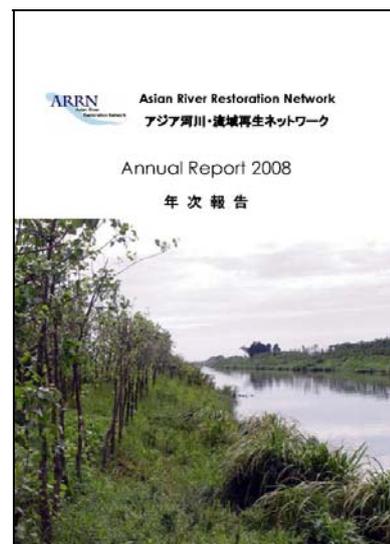
### 「ARRN 年次報告 2008」(日本語版)が完成しました

ARRN (アジア河川・流域再生ネットワーク) の設立2年目(2008年)の活動報告を取りまとめた「ARRN 年次報告 2008」(日本語版)が完成し、ARRN ホームページ上に公開させて頂きました。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/annualreport/>

本報告書では、ARRN 概要や2008年の取組みに加え、ARRN を構成する日中韓の各国内ネットワーク(JRRN, CRRN 及び KRRN) の年次報告も掲載し、2008年のJRRN 年次報告も兼ねております。

本報告書を通じ、ARRN 及び JRRN の一年間の成長をご覧頂ければ幸いです。



ARRN 年次報告 2008 (日本語版)

(JRRN 事務局)

# 活動報告(4)

## 「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1」を出版しました

これまでに作成の進捗報告をさせて頂いておりました「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1」が遂に完成致しました。

本手引きは、ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

目次は下記の通りで、“なぜ河川環境の再生か？”から始まり、河川環境再生のための具体的な方策まで一通りの理解を得るための構成にしております。全28ページで河川環境再生をすべて盛り込むことは

難しい面もありましたが、ARRN が示す第1弾の手引きとして皆様に活用して頂ければ幸いです。

手引きの巻末に“付録1. 河川環境再生のための方策体系表(案)”を添付いたしました。これは、本手引き作成の今後の方向性を示すもので、河川環境再生をより深いレベルで説明していくための基礎になるものです。今後とも、ARRN 技術委員会メンバーを主体として、手引き内容の充実化を図っていきたいと思います。

### ◆第3回 JRRN 河川環境ミニ講座 開催案内

「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1」が完成したことを受けまして、手引きの説明を主体とした河川環境ミニ講座を開催したいと思えます。

#### 『第3回 JRRN 河川環境ミニ講座』

- 対象者: JRRN 会員
- 開催時期: 5月中旬頃
- 所要時間: 約2時間

#### 【内容】

- ①基調講演(約60分)
- ②手引きの説明(約30分)
- ③意見交換(約30分)

本行事の詳細は、メールやHPなどで後日改めてお知らせ致します。当日は、手引きを配布致しますので、多数の参加をお待ちしております。

※ 本手引きは、(財)河川環境管理財団の河川整備基金の助成を受けて作成されたものです。

(JRRN 事務局 丹内道哉)

<b>1. はじめに</b>	
(1) なぜ河川環境の再生か? _____	1
(2) 手引きの目的 _____	2
(3) 手引きの対象者 _____	2
(4) 手引きの概要と位置づけ _____	3
<b>2. 川の本質を知るために大切な視点</b>	
(1) 川の自然・歴史・文化の変遷を熟知する _____	4
(2) 川を流域で捉える _____	5
(3) 川の流れの変動を知る _____	6
(4) 川の役割と地域の関係者を把握する _____	7
<b>3. 河川環境を再生する際の留意点</b>	
(1) 川の歴史と文化に配慮した再生目標を設定する _____	8
(2) 流域の視点から再生を計画する _____	9
(3) 川の流れの変動を踏まえた再生を考える _____	10
(4) 地域の関係者と連携して再生を進める _____	11
(5) 保全と再生の組み合わせを考える _____	12
<b>4. 良好な河川環境を再生するための方策</b>	
(1) 河川環境再生に向けた方策の概要 _____	13
(2) 川の本質を見極めるための調査・研究 _____	14
(3) 川に対する流域住民の意識形成 _____	16
(4) 継続可能な活動とするための合意形成 _____	18
(5) 健全な水質と水量の確保 _____	19
(6) 賑わいのある水辺空間・親水空間の形成 _____	21
(7) 川が本来持つ自然環境の再生 _____	23
<b>付録1. 河川環境再生のための方策体系表(案)</b>	
<b>付録2. 既存の技術指針一覧</b>	

## 会議・イベント等 (2009年4月以降)

### (ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

■ 第3回 JRRN 河川環境ミニ講座「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 説明会」(仮題)

- 日時： 2009年5月中旬頃(予定) 2時間程度
- 会場： 財団法人リバーフロント整備センター 会議室
- 主催： 日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

### (その他の河川再生に関する主なイベント)

■ 流域生態系評価と新技術シンポジウム

- 日時： 2009年4月3日(金) 13:15~17:30
  - 会場： リバーフロント整備センター会議室
  - 主催： 東北大学、リバーフロント整備センター
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/1208.html>

■ メコン川流域の環境保全・開発と国際支援に関する国際シンポジウム

- 日時： 2009年4月9日(木) 9:00~18:00
  - 会場： (社)土木学会 講堂
  - 主催： 社団法人 土木学会 他
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/1209.html>

■ 第131回 河川文化を語る会「街中の水辺」

- 日時： 2009年4月20日(月) 18:00~20:00
  - 会場： 厚生会館(全国土木建築健保)
  - 主催： (社)日本河川協会
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/1180.html>

■ 第132回 河川文化を語る会「川と防災～浸水と親水を考える～」

- 日時： 2009年5月16日(土) 14:00~16:00
  - 会場： 防府市地域協働支援センター
  - 主催： (社)日本河川協会
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/1200.html>

■ 第133回 河川文化を語る会「流域をつなぐ『旭川源流の碑』～伝え、つなぎ、続ける流域連携活動～」

- 日時： 2009年6月18日(木) 14:00~16:00
  - 会場： シェーンバツハ・サボー(砂防会館)
  - 主催： (社)日本河川協会
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/1210.html>

## 冊子・ビデオ等の紹介

■ 川の百科事典(2009.1発行)

- ・編集： 高橋裕
- ・出版社： 丸善
- ・発行年月： 2009年1月
- ・価格： ￥15,750(税込)
- ・ISBN-13: 978-4621080412



本書は、川に関する学術用語から、川遊びや川の命名理由に至るまで、川に関するすべてが漏れなく紹介されています。川に興味を持つ子どもから研究者・技術者までが満足できる川の辞典です。

■ 水辺のミュージアム vol.2 (2009.1発行)

- ・発行： (財)リバーフロント整備センター
- ・価格： 無料



全国の「水辺」にかかわる資料館・博物館を紹介した冊子「水辺のミュージアム」の第二弾が発行されました。一見して捉えにくい水辺の魅力や展示方法をわかりやすく紹介しています。

本書をご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター技術普及部」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。  
電話：03-3265-7121 / Fax：03-3265-7456

# 事務局からのお知らせ

JRRN の活動にご関心のある方、また国内外の河川再生の情報に興味をお持ちの方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

## ■ JRRN の登録資格

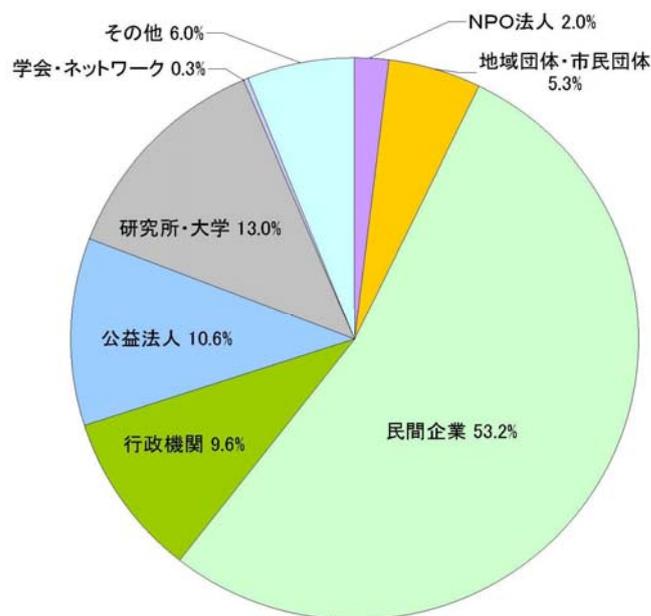
JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。

市民団体、NPO 法人、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

## ■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に1回～2回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2009年1月31日時点の個人会員構成

### 【発行・問合せ先】

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 企画グループ 内  
〒102-0082 東京都千代田区一番町 8 番地  
一番町 FS ビル 3 階

Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456

E-mail: [info@arr.net](mailto:info@arr.net)

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

### ■ 会員登録方法

以下のホームページより個人・団体会員登録が可能です。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>